

14 ニホンジカによる造林地被害に対する新たな取組について

岐阜森林管理署 七宗森林官 ○古田 誠
一般職員 中谷 淳視

1. 課題を取り上げた背景

人工林の蓄積量がピークを迎え主伐再造林の推進が最重要課題とされる中で、獣害対策による再造林コストの増大が大きな課題となっています。そこで、コストがかかる防護柵を設置せず、忌避剤による防護と罠による捕獲を並行して実施することにより造林地の保護と獣害対策に係るコストの削減が可能か試みるため、ニホンジカの捕獲数及び出没数の推移を観察することによる植栽木の保護効果の検証と簡易なコストの比較を実施しました。

2. 取組の経過

今回の実施林分である七宗国有林 1241 林小班は、平成 30 年 10 月末にヒノキコンテナ苗 4,060 本を植栽した箇所です。

当該箇所では防護柵を設置せず、忌避剤塗布のみを継続して実施することとしています。さらに、平成 30 年 12 月から小班を囲むように笠松式くくり罠改良型 30 基、センサーカメラ 18 基を設置して出没状況を記録するとともに、植栽木の食害状況を調査しました。



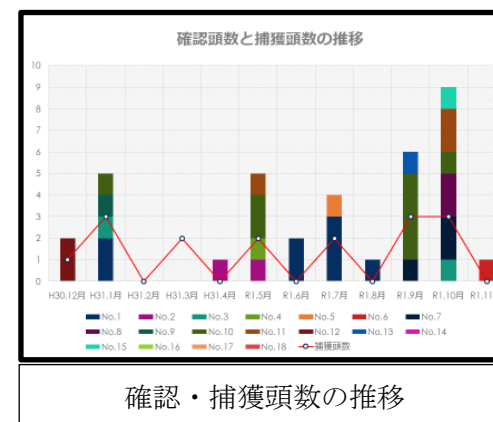
くくり罠設置状況



センサーカメラによる確認

平成 30 年 12 月から令和元年 11 月までの期間において、センサーカメラにより 36 頭を造林地で確認し、同時にニホンジカ 16 頭をくくり罠で捕獲することができました。この捕獲頭数については、七宗国有林全体過去 5 年間の年平均捕獲頭数 18 頭に匹敵する数値となり、一定の成果を上げています。また、植栽木の食害状況を調査したところ、被害率は植栽本数に対して 11%と少ない割合を維持しています。

実行に係る造林コストを比較すると、防護柵を設置する場合、およそ 1,440,000 円/ha を要するのに対し、今回の取組はおよそ 590,000 円/ha で実施可能なことから、コストの削減が可能であると考えますが、職員による見回りの効率化や捕獲技術の向上等を含め、実施するための体制を整える必要があります。



4. 考察

今回の取組は、初年度であるため忌避剤による防護と捕獲による植栽木への保護が効果的に行われたかの検証はできませんが、再造林を進めていくためには保護と捕獲を並行して進めていくことが重要と考えます。今後も無人航空機による見回りの効率化や資格取得を含めた職員の捕獲技術向上を推進する等、この取組を継続することにより成果を検証していきたいと考えています。